

連合駿台会報

No.325 平成28年1月15日発行
 発行・編集 連合駿台会
 発行人 広報委員長・齋藤柳光
 編集人 事務局・矢嶋まゆ子
 〒101-0052千代田区神田小川町三十三二
 明治大学「紫紺館」内
 電話 (〇三) 三二九六一四七七
 印刷 有限会社 美創

大学の更なる発展を願って

連合駿台会
会長
山口政廣



新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

旧年中は、当会の運営・活動に対し、ご支援・ご協力を賜わり、順調に推移することが出来ました。厚く御礼申し上げます。

昨年は、戦後七十年の節目にあたり、政府が閣議決した首相談話が、国内外の注目を集めました。「反省」「おわび」「植民地支配」のキーワードにも触れ、歴代内閣の立場は揺るがないと強調したことは、概ね好感を持たれました。更に、謝罪を繰り返す状況に区切りをつけたい意向を示したことも、評価できるのではないのでしょうか。

また、十二月には慰安婦問題についても、対話の機運が高まり、早期妥結の可能性が

出、日韓関係の再構築が期待されるようになったことは、喜ばしいことでした。反面、世界的にみるとこの一年、様変わりの様相になってきたことは残念なことです。

一つは、欧州の変化です。ギリシャ危機が発生した時は、EUには政治的指導力があり結束して危機を乗り切りました。しかし、年央から数百万人にも及ぶ大量な中東難民が欧州に流入したことにより、主要国は自国の利害にとらわれ、有効な対策を打ち出せずにあります。その反動として、排他的風潮が強まり、ポピュリズムが台頭し、欧州の右傾化が見られるようになりました。

二つめは、欧州と米国の関係が壊れ始めているのではないかと懸念です。中国主導

のアジアインフラ投資銀行創設に関し、英国をはじめ主要な欧州諸国が創設メンバー入りしたのに反し、米国・日本は今のところ不参加です。習近平国家主席の訪英で、英米間で交わされてきた特別な二国間関係という言葉が、英中間にも誕生しました。

三つめは、民族や宗教の違いによる摩擦が一段と厳しくなり、宗派の対立までに発展したことです。特に、シリア・イスラム国に対する米国・ロシア・欧州をはじめ、周辺国の対立が複雑に絡み、解決が非常に困難になってきたことです。

四つめは、三と関係がありますが、米国の「9・11」と同様に、仏国の「11・13」となる無差別テロの発生とその拡散です。日本人も犠牲者を出し、テロの脅威が各国共通の課題となったことです。

本年は、これらと経済の先行き不安を背景に、極端な発言に引き付けられて、世界規模の紛争にも繋がりがありません。注視する必要があります。

さて、各大学は「二〇一八年問題」の受験者数減を迎え、経営の見直しが求められております。十八歳人口の減少で、現在、私立大学六百四校の内、約四割が定員割れの状態で生き残りへの対応が、緊急な課題となっております。

幸い母校は、二〇一一年に策定した「長



期ビジョン」の実現に向けた事業を展開し始めておりますが、基盤となるのが健全な財政です。残念ながらここ二年ほどは、帰属収支差額が赤字を続けており、今後とも予算を許しません。ビジョンを達成するためにも、なんとしても財政の建て直しが優先されます。

本年は、大学機関の改選期です。当会からも評議員会に多数選出されれば、会員の各分野で培われた経験・実績と見識を生かし、

諸課題解決に貢献できるのではないのでしょうか。

会活動も、従来になく活発なものとなってきました。各委員会の積極的な企画・サポートが支えになっております。各委員会の方々のご努力に対し感謝申し上げます。

結びにあたり、皆様のご健勝・ご多幸を心から祈念し、ご挨拶といたします。

前へ、 道を切り拓く年に

学校法人明治大学
理事長
日高憲三



謹んで新年のご挨拶を申し上げます。明治大学は、本年一月十七日に創立一三五周年を迎えます。これも、学生、教職員、卒業生、そして、連合駿台会会員をはじめとする本学を愛する皆様のご支援の賜物と、御礼申し上げます。創立一三五年度の節目の年に、あらためて明治大学の発展に全力を尽くすことをお誓い申し上げます。

さて、現在、本学は、二〇一一年に策定した学校法人明治大学長期ビジョンの実現に向けて、事業を展開しています。「世界へー国際人の育成と交流のための拠点 世界で活躍する強く輝く『個』を育てる教育研究の実

現」。この長期ビジョンの下、本学は、国際大学との連携、アセアンセンター開設、スーパードグローバル大学創成支援事業の採択等、国際化戦略を立て、教育研究活動を展開してまいりました。その結果、国際化拠点整備事業に採択された二〇〇九年度と比べて、外国人留学生受入数は、八百七十四名から千六百三名に、本学学生の海外留学派遣数は、三百七十二名から千九名に、それぞれ大きく増加。加えて、協定校の拡充、海外卒業生組織・紫紺会の相次ぐ結成と、明治の絆を世界に展開し、海外にもヒューマンネットワークを広げています。今年も引続き、スピード感

をもって国際化事業を推進し、教育研究活動の活性化を図る所存です。

一方で、本学には課題が山積しています。とりわけ喫緊の課題として、財政問題に目を背けるわけにはいきません。十八歳人口減少の加速化、入学定員管理の厳格化、消費税増税の影響と、外部環境は大きく変化しています。基本金組入前当年度収支差額（帰属収支差額）の改善のため、諸施策を講じていますが、教育研究施設整備をはじめとした将来を見据えた計画も必要で、手をこまねいている時間はありません。本学は、いま、適正な事業規模を見極め、事業の取捨選択を図る、厳しい決断を迫られています。

これまで、本学の歴史には、幾多の困難や苦境がありました。しかし、偉大なる先人たちは、勇気と知恵をもって困難に立ち向かい、挑戦を続け、苦境を乗り越えてまいりました。

私たちは、来たる本学創立一五〇周年に向けて、変化を恐れることなく、挑戦を続け、長期ビジョンの実現に邁進してまいります。先行きが不透明で、不確実な時代。だからこそ、「前へ」と道を切り拓く勇氣が必要なのです。

今後も明治大学が、社会の負託にこたえていくために、連合駿台会会員の皆様におかれましては、引続き、厚いご支援、ご協力を賜

りますようお願い申し上げます。
結びに、連合駿台会のみますますのご発展

と、会員の皆様のご健勝とご多幸を心から祈り申し上げます。

未来への 飛躍に向けて

明治大学
学長 福宮賢一



謹んで新年のご挨拶を申し上げます。本年も連合駿台会の皆様のお力をお借りしながら「前へ」歩んでいきたいと存じます。

昨年を振り返ってみると、未来への飛躍に向けて着実に足場を固める一年でありました。教育面では、就任当初から取り組んでおります、本学の教育の質的転換と国際通用性を高める総合的教育改革が、二〇一七年度からの時間割と学年暦の変更をプレスリリースできる段階にまで至りました。全学一斉の導入に向けて残された準備期間は多くはありませんが、この抜本的な教育改革は今後の本学の教育力の礎となることは間違いありません。また、スーパーグローバル大学創成支援で掲げた目標を達成するためにも必要不可欠なものです。グローバル人材の育成は、産官学の連携はもちろんのこと、社会全体で取り組まなければならない極めて重要な課題ではありますが、皆様のご協力を得ながら、白雲なびく駿河台の地から「未来開拓力」に優れ

た学生が世界に羽ばたく姿を日常の光景とできるよう、本年もまい進していく所存です。

研究面では、科研費内定金額の堅調な増加をはじめ、社会から注目される研究も増えております。このような特徴的、かつ独創的・先端的な研究を一層推進していくためにも、さらなるサポート体制を整備していかねければなりません。近年の研究成果からもお分かりいただけるように、本学には確かな研究力を持った教員、すなわち、世界の中で光り輝く「個」として活躍できる教員が数多くいます。この力をさらに高めることで、明治の研究力を世界水準に引き上げてまいります。

さて、本学は本年創立一三五年を迎えます。このような節目の年にあたり、我々は今一度創立者の想いに立ち返る時機にあると思料するところです。創立者の一人である矢代操は、鯖江から十二日間かけて徒歩で上京したと言われております。記録はありません

が、岸本辰雄・宮城浩蔵もまた同様であったことでしょう。それぞれが旅路の中で膨らませた想いや志は、大学南校での出会いを経て、明治法律学校の設立という形で具現化されました。三人の想いと熱意が込められた建学の精神は、現代社会においても色褪せることのない理念であります。一三五年の時を経ても、本学にとって揺るぎない根幹であるのです。

今こそ創立者の想いを胸に、我々は持続的発展を遂げなければなりません。そのためにも、近年の本学の社会的評価に安住することなく、厳しい競争環境に置かれていることを再認識し、これまでに果たしてきた地道な努力の積み重ねを粘り強く継続していかねばなりません。この注力があればこそ、本学の際立った特徴と未来への飛躍につながり、全国各地・世界各国から高き志を持った者が集う大学であり続けることができるのです。持続的成果は天の恵みや偶然の所産からは生み出されません。「次代を拓き、世界へ発信する大学」として、ここから新たな一歩を踏み出すためにも、皆様のご支援を賜りたくお願い申し上げます。

結びにあたりまして、連合駿台会のみますのご発展と会員各位のご多幸を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。



謹賀新年



T C I株式会社

代表取締役

あぐつ 坏

昭二

〒150-0011 渋谷区東二一七七一〇
TEL 五四六七〇〇三六
FAX 五四六七九三四七
E-mail:shojak2@tc-i.co.jp

足立会計事務所

税理士 足立吉松

〒410-0832 静岡県沼津市御幸町二四一三〇
TEL 〇五五九三二一六三九一
FAX 〇五五九三三四〇一二五

株式会社エービーコーポレーション

代表取締役

阿部倫明

〒980-0004 仙台市青葉区宮町三一八一三三三
TEL 〇二二二二七〇〇三三
FAX 〇二二二二五一一〇八一

新井久晴

〒360-0833 埼玉県熊谷市広瀬八〇〇一二六〇六
TEL 〇九〇一三四七八一七八五二

株式会社三井住友銀行

常務執行役員 石井仁

〒100-0005 千代田区丸の内一〇一〇一〇二
TEL 四三三三三二七九五

三八五流通株式会社

常務取締役

泉山和久

〒039-1189 青森県八戸市長苗代上中坪三五五一
TEL 〇一七八一七七一四一四一
FAX 〇一七八一七七一五〇九

前田道路株式会社

代表取締役

磯

昭男

〒141-8665 品川区大崎一〇一〇一三
TEL 五四八七〇〇二二
FAX 五四八七〇〇四一

株式会社カーセブンデイベロブメント

代表取締役

井上貴之

〒103-0012 中央区日本橋堀留町一〇一〇一
TEL 五六五一七七〇〇
FAX 三二四九七七七七八
細田商事ビル2F

明治大学評議員・校友会副会長

岩田守弘

〒520-0652 滋賀県大津市朝日が丘一〇一四一六
TEL & FAX 〇七七七五二六〇八〇二

株式会社チュチュアンナ

代表取締役 上田利昭

〒540-0003 大阪府中央区森の宮中央一〇一〇二
TEL 〇六一七七一七六一一五四六
FAX 〇六一七七一七六一一五六二

連合駿台会 専務理事

上西紘治

〒244-0803 横浜市戸塚区平戸町七七五一〇
TEL & FAX 〇四五八二二一六四三三
携帯電話 〇九〇一三三三一四七三九





株式会社プラム社

代表取締役
宇田川雄弘

〒179-0085 練馬区早宮三ー七ー四
ファミリエビル1F
TEL 三九九三ー五三八一
FAX 三九九三ー五三八三

株式会社藤枝江崎書店
株式会社藤枝江崎新聞店

代表取締役
江崎友次郎

〒426-0025 静岡県藤枝市藤枝一ー四一ー二
TEL 〇五四一六四四一六〇六〇
FAX 〇五四一六四四一五二九〇

株式会社明大サポート

代表取締役
打出満

〒101-8301 千代田区神田駿河台一ー三三ー一
明治大学学生会館B1F
TEL 五二八〇一ー五〇〇〇
FAX 五二八〇一ー五〇〇五

HOYAサービス株式会社

代表取締役
大原幸男

〒164-8545 中野区中野四一ー〇一ー二
中野セントラルパーク サウス6F
TEL 五九一三ー二二〇〇
FAX 三二二八一三ー一一八

ベップ・メイツ株式会社

代表取締役
大前実之

〒103-0011 中央区日本橋大伝馬町一ー四一ー〇一ー四F
TEL 三六六三ー八八二七
FAX 三六六三ー八八二八

安全と信頼の警備
タイヨー株式会社

最高顧問
大村託現

〒124-0023 葛飾区東新小岩五ー八一ー二二
タクミビル2F
TEL 五八七五ー七三五〇
FAX 五八七五ー七三六〇

株式会社アマダホールディングス

代表取締役兼
CEO
岡本満夫

〒259-1196 神奈川県伊勢原市石田二〇〇
TEL 〇四六三ー九六一一一一
FAX 〇四六三ー九六一三四〇七

富士建物管理株式会社

代表取締役
長田宇功

〒190-0021 立川市羽衣町三ー八一ー一
TEL 〇四二一ー五二四一六五一
FAX 〇四二一ー五二四一六五一一

株式会社聖和

代表取締役
小野寺弘三

〒533-0033 大阪市東淀川区東中島一ー八一ー五
新大阪ビル一六〇八号
TEL 〇六一六八一五一一八〇
FAX 〇六一六八一五一一八〇三

株式会社カナエ

代表取締役
金子圭太

〒105-0013 港区浜松町二一ー〇一ー二
カナエ本社ビル
TEL 三四三二一五四一〇
FAX 三四三七一六六六八

株式会社ホテルグランドパレス

代表取締役
河村博

〒102-0072 千代田区飯田橋一ー一ー一
TEL 三三六四一ー一一一
FAX 三三六四一五四九六

木下サーカス株式会社

代表取締役
木下唯志

〒700-0822 岡山市北区表町三ー二二一ー二三
TEL 〇八六一三二一ー〇四一一

株式会社協成

代表取締役
古賀慎一郎

〒162-0846 新宿区市谷左内町三ー一
TEL 三三六〇一五三二六
FAX 五二六一一七〇八五

株式会社スヴェンソン

代表取締役
児玉圭司

〒107-0052 港区赤坂一ー九一ー一三
三会堂ビル5F
TEL 三五八六一〇〇一一
FAX 三五〇三一五七九七

総物流をはじめとする多彩なサービスを
「お客様のご満足」と「安全」をモットーに
提供し続ける会社、それがアサガミです



アサガミ株式会社

本社: 東京都千代田区丸の内3-1-1
Tel (03) 6880-2200 fax (03) 6880-2230
http://www.asagami.co.jp/



<p>代表取締役 ベストンサービス株式会社 斉藤 春夫 〒120-0025 足立区千住東二一四一三 TEL 三三八八八一一九三 FAX 三三八八八一一九七</p>	<p>代表取締役 東神興業株式会社 根田 哲雄 〒167-0043 杉並区上荻三一一九一五 TEL 三三九五五五六九九</p>	<p>代表取締役 金印株式会社 小林 一光 〒103-0012 名古屋市中区栄三一八一八一 〒103-0012 ナディアパークビジネスセンタービル三F TEL 〇五二一一三三八一七九一 FAX 〇五二一一三三八一七九七</p>
--	--	--

<p>代表取締役 東都ゴルフ・株式会社東都ジャパン 杉浦 伸二 創業昭和五十六年 〒103-0027 中央区日本橋三三八一〇 TEL 三三八一一〇八〇一 FAX 三三八一一〇八九〇</p>	<p>代表取締役 株式会社シティ・ハウジング 佐藤 仁 〒144-0034 大田区西糀谷四二二八一四 TEL 三七四二二七六〇七 FAX 五七〇五一一八〇九七</p>	<p>常勤監査役 株式会社ネクスト 佐藤 健 〒108-0075 港区港南二一三一三 TEL 五七八三三三六九九 TEL 五七八三三三六九九 E-mail: sato@nextstage.net group オリックス(株)元専務取締役・中小企業診断士</p>	<p>代表取締役社長 公認会計士 株式会社ザイナス 坂田 英夫 〒103-0027 中央区日本橋三二五一一三 TEL 三二七五一一〇八〇八 FAX 三二七五一一〇八〇八 三義ビルF (株)明大サポート監査役</p>	<p>常任顧問 明治大学マスコミクラブ 齊藤 柳光 〒330-0855 さいたま市大宮区上小町九四五 TEL 〇四八一六四四一〇〇八五 FAX 〇四八一六四四一〇三〇六</p>
---	--	---	--	---

<p>大学支援 委員 長 連合駿台会 常務理事 中川 敏洋 〒273-0005 千葉県船橋市本町六一三三四 TEL 〇九〇一四四一三二一六七三</p>	<p>代表取締役 徳丸織物株式会社 徳丸 平太郎 〒335-0001 埼玉県蕨市北町三一五一四 TEL & FAX 〇四八一四四三二二〇五〇</p>	<p>代表取締役 時計ヘルト・貴金属製品製造 株式会社バンビ 館林 精二郎 〒110-0016 台東区台東四一三二二一 TEL 五六八八〇一〇一一 FAX 五六八八〇一〇一三九</p>	<p>代表取締役 ダイアナ株式会社 高橋 郁夫 〒150-0001 渋谷区神宮前一八一八一六 TEL 三四〇五一一四〇〇一 FAX 三四七九一八〇一四 学校法人明治大学評議員</p>	<p>代表取締役 北斗産業株式会社 園田 英次 〒520-3252 滋賀県湖南市岩根六七八一五五九 TEL 〇七四八一七五一八四一一 FAX 〇七四八一七五一八四一四</p>
--	---	---	--	--

船用照明器具・船用配線器具・船用信号器具・船用配電盤
ヘリコプタ着船援助器具・高耐水性照明器具
ISO 9001:2008認証工場

— 信頼と実績に応え、未来に挑戦する集団 —



大石電機工業株式会社

代表取締役社長 **大石 哲也** 昭和63年工学部卒業
〒140-0011 東京都品川区東大井2-17-9
TEL 03-3761-2166 (代表)・FAX 03-3761-4851
<http://www.ohishi-denki.co.jp>



株式会社ナガホリ

会長 長堀守弘

〒110-8546 台東区上野一―一五―一三
TEL 三三三六―四七―一三
FAX 三三三五―〇八一五

株式会社デイスコ

代表取締役社長 夏井文俊

〒112-8515 文京区後楽二―一五―一
TEL 五八〇四―五五〇〇

株式会社ナミキ

代表取締役会長 並木洋一

〒175-0094 板橋区成増三―一―二二―一
TEL 三九三九―〇〇二八
FAX 三九七五―〇〇五六

西山商事株式会社

代表取締役会長 西山武夫

〒201-0004 狛江市岩戸北四―一九―一二
TEL 三四八〇―一四二〇
FAX 三四八〇―四三六五

株式会社富士設備

監査役 原田 榮

〒161-0031 新宿区西落合四―七―一四
TEL&FAX 三九五二―二八五九

高千穂交易 株式会社

平山英樹

メトロ電気株式会社

代表取締役会長 藤巻伴英

〒101-0063 千代田区神田淡路町一―一九―一四
TEL 三二五三―三〇三六
FAX 三二五五―三三九四

弁護士

堀越 孝

本間美邦税理士事務所

所長 本間美邦

〒102-0083 千代田区麹町四―三―一五
TEL 三三六五―五二六一
FAX 三三六五―五二〇七

NPO法人みなみ

理事 松崎優子

〒279-0011 千葉県浦安市美浜三―一九―一四
TEL 〇四七―三五―一六八六二
FAX 〇四七―三八―一五五〇六

株式会社松本商会

代表取締役社長 松本伸一郎

〒354-0021 埼玉県富士見市鶴馬三三四六八
TEL 〇四九―二五―一〇六一
FAX 〇四九―二五―一八八〇〇

高野山真言宗妙智山歓成院名譽住職
宗教学人 大倉山アソカ幼稚園園長

摩尼和夫
(僧名之 法)

〒222-0037 横浜市港北区大倉山二―一八―一七
TEL 〇四五―五三―二〇五四
FAX 〇四五―五三―一四一四

TOCキャパシタ株式会社

代表取締役社長 丸山律夫

〒394-0011 長野県岡谷市今井一五二二五
TEL 〇二六六―七五―一五七八八
FAX 〇二六六―七五―一五八〇五



『防水と屋上を総合的にプロデュースする』

総合防水材料メーカー

日新工業株式会社

〒120-0025 東京都足立区千住東2丁目23番4号

TEL 03-3882-2424

代表取締役社長 相臺 公豊
専務取締役 相臺 志浩



ミズ太郎



株式会社内田洋行
顧問 向井眞一
〒104-8282 中央区新川二丁目四一七
TEL 三五五五-1400
FAX 三五五五-1462

エフ株式会社
代表取締役 宮下隆
〒170-0005 豊島区南大塚三丁目三二一-10
TEL 五九五〇-1665
FAX 五九五〇-1665

アズビル株式会社
執行役員 宮澤光晴
〒141-0002 品川区北品川五丁目五一-15
TEL 六四三一-1510

山下法律事務所
弁護士 山下善久
〒102-0084 千代田区二番町一丁目三
相互二番町ビルディング別館5F
TEL 三三二一-1705
FAX 三三二一-1778

共同印刷株式会社
顧問 山口政廣
〒112-8501 文京区小石川四丁目四一-12
TEL 三八一七-1222
FAX 三八一七-1220

株式会社やまたけ
常務取締役 山口大介
〒123-0841 足立区西新井五丁目三五-13
TEL 三八九九-1377

株式会社ビー・フォアード
代表取締役 山川博功
〒182-0024 調布市布田四丁目六一-1
TEL 〇四二-1440
FAX 〇四二-1440
調布丸善ビル8F
TEL 〇四二-1440
FAX 〇四二-1440

株式会社ダイニチ
代表取締役 六井元一
〒279-002 千葉県浦安市北栄一丁目六一-3
DNプラザビル
TEL 〇四七-1354
FAX 〇四七-1354
<http://www.dainichi.co.jp>

株式会社洋日
代表取締役 渡邊洋三
〒359-0038 埼玉県所沢市北秋津七三九-162
COZYレジデンスF
TEL 〇四一-2008
FAX 〇四一-2008

金魚の吉田 株式会社ヨシダ
代表取締役 吉田信行
〒124-0023 葛飾区東新小岩五丁目四一-7
TEL 三六九四-1375
FAX 三六九四-1375

株式会社シンメイ
代表取締役 湯川孝則
〒226-0013 横浜市緑区寺山町八六三
TEL 〇四五-1937
FAX 〇四五-1937

株式会社日本金属工芸研究所
取締役会長 山田朝彦
〒113-0023 文京区向丘一丁目六一-12
TEL 三八二一-1770
FAX 三八二一-1770

株式会社不二家
代表取締役 山田憲典
〒112-0012 文京区大塚二丁目五一-16
ニッセイ音羽ビル
TEL 五九七八-1813
FAX 五九七八-1813

寒中見舞いはがき印刷承ります

株式会社マイプリント
〒206-0025 東京都多摩市永山6-11-11
Tel 042-337-8111(代表) Fax 042-337-8121
<http://www.myprint.co.jp>

連合駿台会十一月例会

平成二十七年忘年例会

百人超が参加し大盛り上がり



「もう一年か……」「来年もよろしく！」。連合駿台会恒例の一足早い忘年会が十一月十日、紫紺館四階のバンケットルームで行われました。参加者は百人を超え、例年にも増して大盛況。一年の活動を振り返るとともに、多くの新入メンバーも（二〇一六年）を望年しながら、積極的な交流を図りました。

また、忘年会の目玉企画のビンゴゲームでは、これまた例年にも増して充実した豪華景品が提供されて、参加者の誰もが半ば童心に返ったように、その瞬間に一喜一憂、大いに盛り上がりました。

懇親会に先立つ例会では、山口政廣会長の折から起こったバのテロ事件などに触れた基調スピーチがあり、上西紘治専務理事の会務報告が行われ、特に、広報委員会から名刺

広告への協力要請や、時代の趨勢に対応したメール活用に向けたアンケート依頼などもありました。

また、本年の活動を締めくくる講演はノンフィクション作家の小松成美氏にお願いしました。テーマは、「一流とは何か」トップアスリートの真実」小松氏はスポーツを中心に映画、音楽、芸術、旅、歴史など多岐にわたる取材・執筆活動を行い、サッカーの中田英寿選手や横綱白鵬などの著作はよく知られます。

この日は、まずラグビー世界選手権で大活躍した日本代表ヒーローの五郎丸歩選手に触れて、その交流から生まれた多くのエピソードや、そこから浮き彫りになる人柄をお話いただきました。そして、さらには、女子サッカーなどでしこじヤパンを世界に輝かせた佐々木則夫監督の手腕や、プロ野球界の王貞治、長島茂雄というカリスマの実像などをご自身の貴重な取材交流体験からご披露いただきました。

スポーツファンが少なくない会員には、「初耳な話」「大好きなアスリートがより魅力的になった」と大好評でした。小松氏には懇親会でも会員と親しく交流いただきました。

新春は、来年一月二十日の駿台懇話会から始まります。積極的にご参加いただければと思います。

◆広報委員会からの「案内」(理事会議事録)

日時：平成二十七年十一月十七日(水) 十七時
場所：明治大学「紫紺館」(二F会議室)

○新推薦会員承認の件

大原組織・会員増強委員長から、弓野理恵氏、幡谷公朗氏の入会推薦を委員会承認したとの報告があり、全員異議なく承認された。

○各委員長よりの報告事項

〈総務・事業委員会 河村副委員長〉

十月二十一日に行われた「第五回ビジネス勉強会」は、当会会員で(株)埼玉りそな銀行社長の池田一義氏に講師をお願いしたが、参加者が七十人近くの盛会となった。十一月十日には、「第八回オープンゴルフコンペ」を、東京都・小金井カントリー倶楽部(参加者十七名)で開催した。

今後の予定としては、未定となっていた一月例会(駿台懇話会)は平成二十八年一月二十日(水)に決定。ほか、二月二十日(土)には宝塚観劇会&食事会(於：東京第一ホテル)を予定しているが、これは定員五十名とし、同伴者は家族・親族等に限りつもりである。三月例会は三月十六日(水)、講師は(株)時事通信社社長で当会会員の西澤豊氏にお願いしている。また日時等詳細は未定だが、二

月の運営委員会の後に「新入会員歓迎会」を、四月に「第六回ビジネス勉強会」（講師も未定）を行う予定をしている。

〈組織・会員増強委員会 大原委員長〉

今年度の新入会員勧誘の目標は二十五名であるが、今日の承認者を含め、現在二十名なので、今年度末までには何とか目標を達成できるように委員会としても努力するつもりだが、皆さん方の協力もお願いしたい。七月例会の懇親会で、最初に着くテーブルを「業種別」に分類してみたが、どうもあまり評判がよくなかったようなので、今後のやり方については、検討を重ねたい。

〈広報委員会 齋藤委員長〉

お手元に申込書を同封したが、恒例になっている、会報新年号の名刺広告には是非ご協力いただきたい。名刺広告の目標は八十万円と予算立てしているので、特に新入会員の方には協賛いただきたいと思っている。また、今回、メール活用に関するアンケート用紙を同封したが、この結果に基づき、来年の総会に、今後の方向付けを提案したいと考えている。

〈大学支援委員会 中川新委員長〉

この二カ月間に協賛した事業は以下の通り。十月十日・第九回御茶ノ水JAZZ祭り。十月十八日・ホームカミングデー、十一月五日・連合駿台会秋期寄付講座（講師・木下サーカス(株)社長・木下唯志氏）、十一月十三

日・十五日・明治大学シエイクスピアプロジェクト、いずれも好評に終了した。十一月十二日、連合駿台会学術賞選考委員会が開催され、学術賞一件、学術奨励賞二件が決定（学長に未報告なので、ここでは名前は発表しない）、来春一月二十日に開催される駿台懇話会で表彰させていただく。また、産業協同就業力養成講座（キャリア教育支援）については、大学の要請もあり、従来の協力企業五社に加え、二社ほど増やしたいと考えている。

〈財務委員会 谷委員長〉

九月末時点での年会費収入が低調なため、十月に未納者に再請求を出した結果、現時点では、二百九十六名から千三百四十五万円の納入をいただいた。この数字は昨年同期と比べると、人員で九名、金額で二十万円の増となった。ただ、予算千四百七十五万円には未達の予測であり、未納者には、来年二月頃までに納入して頂けるよう、再度請求書を出すつもりでいる。また当会の役員（理事や顧問）の中にも未納者が見受けられるので、納入方よろしくお願いしたい。

○その他

山口会長、上西専務理事より商標登録についての報告があった。今までは、「明治大学連合駿台会」と「連合駿台会」の二つの名称を、各二項目で商標登録をしていたが、今

年、十年目の更新に際し、名称は「連合駿台会」一つを残し、項目も一項目に減らし、期間五年で継続登録した。結果、登録料は五万六千円になった。以上

◆新入会員ご紹介

前会までの理事会で承認され、入会された方をご紹介します。（敬称略・到着順）



埴 英幸
平成八年・商学部卒
東京情報システム(株)・代表取締役
東京都杉並区在住



ゆみの 理恵
昭和五十七年・政経学部卒
(株)バンダイロジナル・取締役
千葉県松戸市在住

◆訃報

当会副会長の谷慈義氏（昭和四十三年・商学部卒、明治大学校友会副会長、元ユアサ商事(株)代表取締役社長・会長）が、平成二十七年十二月十五日に逝去されました。享年七十七歳。

ご冥福を心からお祈り申し上げます。

◆ 明大ニュース

● 次期学長候補に土屋教授(法)を銓衡

副学長候補には小林教授(理工)を選出

明治大学連合教授会は二〇一五年十二月十二日、次期学長候補として、法学部教授の土屋恵一郎氏を銓衡した。現明治大学長が、二〇一六年三月三十一日をもって任期満了となることを受け、学校法人明治大学寄附行為施行規則第五条の規定に基づき銓衡したものの。

今後、評議員会の承認を得て、理事長が任命する。就任予定日は二〇一六年四月一日、任期は四年。なお副学長候補には、理工学部教授の小林正美氏が選出された。

副学長のうち一名は、副学長に関する規程第三条に基づき、学長候補が副学長候補を指名することとなり、学長候補の銓衡と併せて選出され、理事会で任命される。

● 土屋恵一郎(つちや・けいいちろう)

一九七〇年明治大学法学部卒業、一九七七年同大学院博士課程単位修得退学。一九七八年明治大学法学部助手、一九九三年同教授。法学部長、教務担当常勤理事など歴任。

六十九歳。(法哲学、近代イギリス思想史)

● 小林正美(こばやし・まさみ)

一九七七年東京大学工学部卒業、一九八九年同大学院博士課程修了。一九九二年明治大学理工学部講師、二〇〇三年同教授。理工

学部建築学科長など歴任。工学博士。六十一歳。(都市計画・建築計画)

● 次期大学院長候補に坂本教授(経営)選出

明治大学大学院委員会は二〇一五年十二月十二日、次期大学院長候補として、経営学部教授の坂本恒夫氏を選出した。現明治大学院長が、二〇一六年三月三十一日で任期満了となることを受け、明治大学大学院学則第十条の規定に基づいて選出された。任期は二年間となる。

● 坂本恒夫(さかもと・つねお)

一九七一年中央大学商学部卒業、一九七九年明治大学大学院博士課程修了。一九九一年明治大学経営学部教授。一部教務部長、副学長(研究担当)など歴任。

六十八歳。(財務管理論・経営管理論)

● 自己点検・評価報告書を

学長から理事長に提出

福宮賢一学長(自己点検・評価 全学委員会委員長)は十二月七日、自己点検・評価規程に基づく、「二〇一四年度自己点検・評価報告書」を日高憲三理事長(自己点検・評価評価委員会委員長)へ提出した。

日高理事長は同報告書提出を受け、一月二十七日に評価委員会を開催する。この委員会は、理事、学部長等の学内役職者の他、七

名の学識経験者(民間企業経営者、他大学教員等)の二十四名で構成し、自己点検・評価が適切に行われているか点検するとともに、今後本学が重点的に改善・改革していくべき点などを議論し、「評価委員会による評価結果(大学への提言)」をとりまとめ、三月下旬に明治大学ホームページに公開する。

● 経理研究所

● 公認会計士試験 現役合格者二十人を表彰

金融庁の公認会計士・監査審査会は十一月十三日、二〇一五年の公認会計士試験合格者を発表した。最終合格者数は千五十一人(前年千百二人)で、合格率は一〇・三%(同一〇・一%)だった。明治大学関係の合格者は四十二人(十二月十日現在、明治大学経理研究所調べ)。

この発表を受け、経理研究所は十二月四日、現役合格した学生を対象とした報奨金授与式を駿河台キャンパス・岸本辰雄ホールで執り行った。今回報奨金を授与された現役学生は、商学部八人、政治経済学部五人、経営学部七人の計二十人。このうち、公認会計士養成機関である経理研究所特別会計研究室に所属する学生は十九人だった。

授与式では、山本昌弘経理研究所長(研究担当副学長)からのあいさつに続き、現役合格者一人ひとりを紹介。合格者を代表し

て、大湯俊樹さん（経営3）が、福宮賢一学長から報奨金目録を授与された。

●明治が誇る冒険家・植村直己の精神を伝える 「二〇二五日本冒険フォーラム」

明治大学が世界に誇る冒険家・植村直己（一九六四農卒）の精神や功績を後世に伝える「二〇一五日本冒険フォーラム」が十一月二十二日、兵庫県豊岡市との共催により駿河台キャンパス・アカデミーホールで開催された。植村の故郷である豊岡市が四年に一度開催するもので、二〇一一年に続き二回目。今回は「植村直己が追い続けた世界―なぜ、極地なのか」をテーマに、基調講演やパネルディスカッションなどが行われ、会場は植村ファンや各地から集まった冒険者ら約千人で埋まった。

●瀬木教授「ニッポンの裁判」が

第二回城山三郎賞を受賞

瀬木比呂志・法科大学院教授の著書『ニッポンの裁判』（講談社現代新書）がこのほど、第二回城山三郎賞（角川文化振興財団主催）を受賞した。瀬木教授は元裁判官で、最高裁判所調査官などを歴任。著書では日本の司法制度や裁判の実態に鋭く切り込んでいる。

城山三郎賞は、戦後経済小説の祖でありながら、ジャンルを超えて多くの名作を遺し

た城山氏が貫いた精神を受け継ぎ、小説、評論、ノンフィクションを問わず、いかなる境遇、状況にあっても個として懸命に生きる人物像を描いた作品、あるいはそのような人物が著者である作品を顕彰するため、二〇一四年度に新たに創設された。

●OB社長

▽千趣会（小売業） 〓星野裕幸氏（一九八二年政経学部卒・五十六歳）
▽東京エレクトロン（電気機器） 〓河合利樹氏（一九八六年経営学部卒・五十二歳）
▽夢テクノロジー（サービス業） 〓本山佐一郎氏（一九七二年政経学部卒・六十六歳）

●サッカー部

五選手がJリーグに入団内定

体育会サッカー部は十一月十九日、Jリーグ各クラブへの入団が内定した五選手の記者会見を駿河台キャンパス・紫紺館で開催。選手たちは四年間の思い出や現在の心境、今後の抱負などを語り、新たなステージでの飛躍を誓った。サッカー部からのJリーグ入りは六年連続。会見に出席したのは、J1・名古屋グランパスに入団が内定した和泉竜司選手（政経4／主将・MF）と高橋諒選手（文4／DF）、同・ベガルタ仙台に内定の差波優人選手（商4／MF）、来季J1に昇格する

大宮アルディージャに内定の山越康平選手（法4／DF）、J2・ファジアーノ岡山に内定の藤本佳希選手（文4／FW）の五選手と、サッカー部の栗田大輔監督。

●硬式野球部

ドラフト指名三選手が学長・理事長を表彰

二〇一五年プロ野球ドラフト会議で指名を受けた体育会硬式野球部の三選手らが十一月五日、福宮賢一学長と日高憲三理事長を表彰訪問した。この日、駿河台キャンパスを訪れたのは、阪神タイガースから一位指名を受けた高山俊外野手（文4）、二位指名の坂本誠志郎捕手（文4）、北海道日本ハムファイターズから一位指名された上原健太投手（商4）の三選手と、硬式野球部の井上崇通部長（商学部教授）、善波達也監督の計五人。

●校友会寄付講座

世界が注目の経営者、山川博功氏が登壇

明治大学の生涯学習機関・リバティアカデミーは十月二十八日、「創業十年で売上三百五十六億円の軌跡！ From Japan 〓日本企業が躍動！ 〓BOPビジネス最前線」と題するオープン講座を駿河台キャンパス・グローバルホールで開催。世界から注目を集める経営者、山川博功氏（株ビイ・フォアード代表取締役／一九九三年文学部卒）が講師を

務めた。同講座は、校友会の寄付により実現したものである。

山川氏は卒業後、東京日産自動車販売(株)(現・日産東京販売ホールディングス(株))に入社し、最優秀新人営業賞を受賞。一九九七年にカーワイズ入社後は、三ヶ月で同社のトップセールスに。一九九九年に(有)ワイズ山川を設立し、二〇〇四年には(株)ビー・フォアードを設立。創業十年で、アフリカを中心とする新興国など約百カ国、年間十二万六千台超の中古自動車を輸出する企業に成長させた。

● 第三百三十一回 明大祭

「輝くセカイに高鳴る心」

十月三十一日～十一月二日、和泉キャンパスで開催された明大祭の今年のテーマは「輝くセカイに高鳴る心」。延べ三万六三〇四人が来場し、爽やかな秋空のもと多くの学生たちでにぎわった。

学生で組織される明大祭実行委員会が主催するこの一大イベントも、今年で百三十一回目。サークルやゼミな二百五十超の学生団体が、多種多様な模擬店やステージでのパフォーマンス、多彩な教室内での企画に参加した。普段のキャンパスとは異なる特別な空間では、学生たち一人ひとりが「輝くセカイ」に思いを馳せながら「高鳴る心」を体感していた。

● 就職キャリア支援センター

「企業と大学との就職懇談会」

明治大学就職キャリア支援センターは十一月二十五日、大学役員・役職者と各学部・大学院の就職担当教員が企業の採用担当者と情報交換や交流を行う「企業と大学との就職懇談会」を駿河台キャンパス・アカデミーコモンにて開催。四百七十五社の担当者が出席した。この懇談会は、本学の教育・研究内容や就職支援の取り組み、企業側の採用状況などについて意見や情報を交わすことで大学・企業間の連携を深め、明大生の就職と企業の採用活動に役立てようと毎年開催されているもの。

● 連合駿台会寄付講座

世界サーカス連盟大使、木下唯志氏講演

リバティアアカデミーのオープン講座「一日一死〜今日一日を真剣に生き抜くこと〜」が十一月五日、駿河台キャンパス・グローバルホールで開催され、木下サーカス(株)代表取締役一九七四年経営学部卒)が、約百八十人の受講者を前に講演した。

本講座は、政界、経済界、学界、法曹界などあらゆる分野で活躍する校友で組織され、明治大学の目指す「トップスクールへの歩み」支援することを目的に活動する「連合駿台会」(二〇〇二年設立)の寄付講座。

木下氏は卒業後に木下サーカス(株)へ入社し、一九九一年に四代目の代表取締役社長に。二〇〇六年に日本仮設興行協同組合理事長に就任し、二〇一一年にはモンテカルロ国際サーカスフェスティバルの審査員に日本人として初選出。二〇一五年一月、モナコのステファニー王女より世界サーカス連盟の大使に任命され、世界で六人目の特別大使となった。体育会剣道部出身で、剣道は三段の腕前。

● リバティアアカデミー

「国境なき医師団とわたし」講座開催

「国境なき医師団とわたし」かけがえのない命を救うために」と題するリバティアアカデミーのオープン講座が十一月十三日、駿河台キャンパス・グローバルホールで開催され、医師の安藤恒平氏が百四十人の受講者を前に講演した。明治大学シモース・ヴェイユ基金運営委員会と、明治大学人権委員会の共催。

安藤氏は二〇一一年に外科医としてナイジェリア、パキスタンへ派遣されて以降、二〇一二年にイエメン、二〇一三年にシリア、二〇一四年には南スーダンに渡り活動。「国境なき医師団日本」(一九九二年発足)の理事を二〇一四年から務めている。

講演で安藤氏は「国境なき医師団(MSF)」に携わるまでの経緯を語ったのに続き、一九七一年に医師とジャーナリストがフラン

スで設立したMSFについて解説。「十の活動原則」の存在や、活動資金の九〇%が民間からの寄付であることなどに触れた。

●リバティアカデミー

生田で「富岡製糸場とフランス」講座

リバティアカデミーは十二月二十三日、オーブン講座「富岡製糸場とフランス」リヨン、横浜、そして富岡、生糸が結んだ日仏経済交流の絆」（川崎市教育委員会連携事業）を生田キャンパス・地域産学連携研究センター多目的室で開催した。講師を務めたのは、政治経済学部のクリスチャン・ポラック客員教授。経営者として忙しい日々を送りながら、日仏交流史に関する研究を続けている。

講座は、「日本とフランスとの運命的な交流のきっかけは、ヨーロッパで起きた蚕（カイコ）の流行病により、養蚕業が壊滅状態となったことである」との説明から始まった。

ポラック客員教授は「フランスにとって流行病に唯一耐性があった日本の蚕を手に入れることが、日本にとってはフランスの持つ最新技術を得ることが重要であった」ことなど、両国の相互依存的経済交流の歴史について、豊富な資料と共に紹介。「富岡製糸場は、フランスに安定的かつ大量に生糸を輸出することが目的で建設された国家的プロジェクトであった」と解説した。

●シェイクスピアプロジェクト『薔薇戦争』

すべてのスタッフ・キャストを明大生が担い、壮大なシェイクスピア劇に挑む「明治大学シェイクスピアプロジェクト（MSP）」。十二回目の今年は、歴史劇『薔薇戦争』を十一月十三日～十五日の三日間（全五回）、駿河台キャンパス・アカデミーホールで上演。

昨年続く二部構成で、三年間にわたるシェイクスピア歴史劇シリーズの完結編となった今回は、過去最多となる三千七百九十一人を動員。稽古や準備に没頭した成果を存分に発揮し、聴衆を大いに魅了した。

第一部『ヘンリー六世』と、第二部『リチャード三世』でそれぞれ主役を演じた明大生二人のからの寄稿も寄せられた。

●和泉図書館

来館者数300万人の記念セレモニー

十一月四日、和泉図書館の来館者数が三百万人を突破し、同図書館にて記念セレモニーが行われた。栄えある300万人目の来館者は、商学部一年生の藤田佳野子さん。この日、授業の課題に取り組むため訪れたといひ、突然の発表に驚きつつも、うれしそうに林義勝図書館長（文学部教授）から認定証と記念品を受け取った。藤田さんは「素敵な図書館で居心地がいい。これからもどんどん利用していきたい」と感想を語った。

また、299万9999人目の来館者となつた石川雄亮さん（商1）、300万1人目の来館者となつた片野明衣さん（情コミ2）にも認定証と記念品が手渡され、それぞれ「今日はゼミ試験が近いので勉強にきた。コミュニティセッションスペースはおすすすめ」（石川さん）、「論文を書くための資料を探しにきた。授業の空き時間によく利用します」と日頃の活用方法を話していた。

●千代田区から高い評価

「明大町づくり道場」

「音楽を通じた町おこし」をコンセプトに、明治大学出身の音楽家・宇崎竜童氏（一九六九年法学部卒）を道場主として、二〇一〇年に設立された「明大町づくり道場」。現在、約五十名の学生で活動しており、「お茶の水JAZZ祭」の運営をはじめとして、東京都千代田区のお茶の水界隈の各催事（アートピクニック・お茶の水熱気楽器祭・神保町ブックフェスティバル・神田スポーツ祭り・カレッジランプリ・千代田のさくらまつり・JAZZ AUDITORIUM他）の運営などにも参加している。

「地域を盛り上げるために何ができるか」を常に考え、生まれたアイデアを随時地域に提案。単なるお手伝いではなく地域の輪の一員という思いで活動をしており、千代田区の地

域住民や関係者から高い評価を得ている。

六年目を迎えた二〇一五年も、年間を通じてお茶の水・神田・神保町の随所で「明大町づくり道場」が活躍。直近では一・二年生が中心となり、お茶の水サンクレーンル商店会のクリスマスイベント（十二月五日開催）を盛り上げた。
（社会連携事務室）

●NHKドキュメンタリーを用いた初年次教育

『戦争』と『戦後70年』を考える』を実施
十一月二十七日から十二月十一日まで和泉キャンパス・和泉図書館ホールを中心に、教育開発・支援センター主催による初年次教育プログラム『戦争』と『戦後70年』を考える』が実施された。和泉・生田・中野の三キャンパスで、九本のNHKドキュメンタリーが上映され、和泉図書館ギャラリーでは関連書籍・資料が展示された。

二〇一三年度に開始された本プログラムは、ドキュメンタリーという映像を大学生の学びの「動機付け」に活用することを一つの目的としている。加えて、二〇一五年が「戦後70年」という節目の年に当たることから、「アジア・太平洋戦争」と「戦後70年」を考えることを目的とした。

●体同連サッカー部

全国大学同好会選手権優勝

体同連（体育同好会連合会）サッカー部は、十二月一日～二日にJリーグREN堺（大阪府堺市）で開催された「全国大学同好会サッカー選手権大会二〇一五」で優勝。各大学の代表チームを決める学内戦や各地区予選に参加した、全国三百七十五チームの頂点に立った。体同連サッカー部は十四チームで行われた学内戦を勝ち抜き、体同連生田サッカー部とともに、三十二チームが争った関東予選（アットホームカップ、十月十日～十二日）に出場。無敗で優勝を果たし、関東第一代表の座を手にした。

各地区予選を勝ち抜いた八チームで行われた選手権では、予選リーグのグループA（四チーム）を一位で勝ち上がると、グループB一位の中京大学 Reiorca FCとの決勝戦も1-0で制し、見事、全国制覇を果たした。

●ラグビー部

明早戦制し、対抗戦三年ぶりV

体育会ラグビー部は十二月六日、秩父宮ラグビー場（東京都港区）で行われた関東大学ラグビー対抗戦Aグループの最終戦で、早稲田大学に32対24で勝利。今シーズンの成績を六勝一敗とし、帝京大学と同率で三年ぶりの優勝を果たした。

二万二千人超の大観衆で埋まった秩父宮での伝統の一戦。明大は三トライを奪うなど

して前半を22対12とリードすると、後半は一進一退の攻防を繰り返しながら、ラスト十分は自陣ゴール前で早大の猛攻をしのぎ切り、32対24でノーサイド。対抗戦で早大に三年ぶりに勝利し、優勝を決めた。

●硬式庭球部

諱選手（経営3）が明大勢初インドアV

体育会硬式庭球部の諱五貴選手（経営3）が、第五十二回全日本学生室内テニス選手権大会（十二月三日～六日、大阪・江坂テニスセンター）の男子シングルスで、明大勢初となる優勝を果たした。

インカレ準優勝の実績と悔しさを持って今大会に臨んだ諱選手は、決勝で法政大学の塚越雄人選手と対戦。プレッシャーから序盤はミスを連発し、4対6で第一セットを奪われるも、「途中から吹っ切れた」と、第二セットを6-2、第三セットを6-1で圧倒。悲願のタイトル獲得を果たした。

◆十一月例会出席者

青木幹則、秋山隆敬、坪昭二、浅井宏、浅倉晴司、安達明正、新井久晴、池田勝也、石川かおり、石川均、石原道勝、泉山和久、伊東正博、井上貴之、伊原敏雄、上西紘治、宇川一夫、宇敷和章、梅津章、大竹夏夫、大野正美、大原幸男、大前実之、大村託現、押田

裕介、小野寺弘三、笠井正弘、勝俣正義、栢森靖、河村博、木下重次郎、木村健一、日下豊顕、小島清治、小濱雅悦、小谷野正道、小山修、小山有彦、斉藤春夫、斉藤弘之、齋藤柳光、坂田英夫、坂田政一、坂田正弘、桜井保彦、佐藤和正、佐藤健、佐藤仁、眞田瞳、澤野太嘉嗣、須貝栄、杉浦伸二、鈴木絃一、鈴木隆志、関孝夫、関根均、瀬戸正道、園田英次、高澤徹、高橋郁夫、竹下衛司、田代恭一（代理）、館林精二郎、谷慈義、谷原誠、田村駿、当山明彦、徳丸平太郎、泊三夫、富田正一、富流水孝二、長岡信裕、中川敏洋、長堀守弘、中村豊、西澤豊、西山武夫、二宮充子、野口昌宏、橋口隆二、蓮池信之、長谷川進一、同ご友人、畠中君代、羽生健一郎、馬場範夫、同ご友人、林威樹、日高憲三、平川清、同ご友人、比良田幸雄、平山英樹、福田和彦、福山紘太郎、富士豊、藤巻伴英、堀越孝、前川一郎、眞壁八郎、楨野泰、同ご友人、松崎優子、水江博、同ご友人、宮下隆、宮本浩二、向井眞一、村山友彦、柳内光子、山上雅隆、山川博功、山口大介、山口政廣、山田憲典、山田朝彦、山田勝、渡邊洋三



【編集後記】

去年今年貫く棒の如きもの

高浜虚子

新年を迎え、皆様も心新たに抱負と期待を胸に秘めておられることと思います。虚子の句も去年と今年も零時を境に繋がるというものの、除夜の鐘と共に一瞬にして過ぎ去った旧年を振り返り、年始を迎え初詣をし、屠蘇を酌み新春を寿ぐ。こうして四季折々の自然の営みを生活に生かし調和をはかってきた日本人。

悪事を働くこと、壁に耳あり障子に目あり、お天道様が見てござる……、と戒めてきた。にも拘らず、昨今の不祥事は何であろうか。東芝の不適切会計問題、オリンピックのエンブレム、マンションの杭打ち問題、さらに血液製剤・有機肥料と悪しき事例が続発した。

日本人の情緒性のためか、日本社会はこうした違反行為に業界も世間にも甘えがあり、それが許されてきた風土があった。かつて、ルース・ベネディクトは著作『菊と刀』で、西欧は「罪の文化」であるのに対し、日本は「恥の文化」と指摘した。恥を知れ!!、だ。今日のグローバルな社会では絶対に許されない。もし悪事が露見したら企業の存立が問われるはずであり、経営者の管理責任は重大である。

オックスフォード大学准教授マイケル・A・オズボーン氏は「二十一年程度で今の仕事の四五%は自動化される」と表明。約半分の仕事だけが人間の直接関与できる仕事だという。それだけに人間の判断が重要になる。

徳川家康は「直言の功は一番槍に勝る」として部下に接したとか。吟味すべき言葉だ。（原田 榮）

※ 謹んで新春のお慶びを申し上げます。皆様のご健康とご多幸を心からお祈り申し上げます。

昨年十二月、久しぶりにラクビー伝統の明早戦を応援に。力だねじ伏せ優勝した紫紺の戦士たちには大拍手を送ったが、正月の大学選手権の準決勝で東海大に惜しくも逆転負けしてしまっただけで観るラクビーはラガーマン同士が本気でぶつかり合い、彼らのパワーやスピードの迫力が凄く、応援合戦を含め圧倒されました。また、恒例の箱根駅伝は日比谷通りでのほりを立てて応援したが、八年連続のシード権獲得は成らず残念！ 皆さん、今年も明大各種スポーツの応援に行つて若返り、健康寿命を延ばしましょう！

に「世界に発信する大学」としてスーパーグローバル大学（SGU）に選ばれ、今後の日本全体の国際競争力を強化するために、その原動力となるグローバル人材の育成を国から託されたのです。選ばれた国公私立大三十七校を合わせると学生数は約五十五万人、教職員は約八万人にもなります。この大きな規模で徹底した国際化教育が進めば絶大なる「日本力」の向上が実現できるでしょう。本学は「世界へ！ MEIJI 8000」をテーマに教職員は勿論のこと、学生の主体的な育成を全学推進体制で日夜取り組んでいます。九年后には二人に一人が海外留学を可能にする一方で外国人留学生の受け入れを現在の二・五倍にする目標です。学生たちが国内外で異文化体験ができると同時に外国人には日本に来て良かった、明大で学んで良かったと言われる大学になつて行くでしょう。

我が明治大学が今後の熾烈な大学間競争を勝ち抜いて行くために、旧に倍する皆様の力強いご支援、ご協力をお願い致します。

年頭に当たり、大学・父母会・校友会・連合駿台会が一丸となつて「明治大学の総合力」をさらに高めて行きましょう！（有賀 隆治）